

日本語課外補講報告 (2021年4月～2022年3月)

田中 信之

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2021度は、前期(2021年4月～9月)と後期(2021年10月～2021年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2021年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて教養教育院所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものがある。本稿では2021年度に五福キャンパスで国際機構が実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが15人(うち2人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが25人(うち2人は初級クラス、6人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが19人(うち6人は中級クラスも同時に受講)、計51人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。51人の在籍身分別の内訳は、大学院生30人、研究生10人、科目等履修生(日本語・日本文化研修留学生)5人、オープンクラス受講生3人、特別聴講学生、予備教育生、研究員各1人である。国・地域別の内訳は、中国36人、インドネシア4人、ベトナム、インド、ロシア各2人、パプアニューギニア、ミャンマー、バングラデシュ、マダガスカル、マレーシア各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部20人、経済学研究科9人、人間発達科学部、経済学部各5人、人文学部3人、工学部、富山県立大学各2人、人間発達科学研究科、国際機構、附属病院、理工学教育部(理学系)、無所属(一般)各1人である。

後期は、初級クラスが12人(うち1人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが8人(うち1人は初級クラスも同時に受講)、上級クラスが18人、計37人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。37人の在籍身分別の内訳は、大学院生20人、研究生4人、科目等履修生(日本語・日本文化研修留学生)6人、オープンクラス受講生、特別聴講学生、特別研究学生各2人、予備教育生1人である。国・地域別の内訳は、中国21人、インドネシア、バングラデシュ、ブラジル、ベトナム、マレーシア各2人、インド、韓国、パキスタン、パプアニューギニア、ミャンマー、ポーランド各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部10人、経済学研究科7人、経済学部6人、人文学部4人、人間発達科学部、富山県立大学各2人、工学部、国際機構、医学薬学教育部、医学薬学教育部(修士課程)、人間発達科学研究科、生命融合科学教育部各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照のこと)。

3 授業担当者

2021年度前期は、国際機構専任教員2人(田中信之、濱田美和)、および、非常勤講師5人(高島智美、中河和子、中田理子、要門美規、横堀慶子)、2021年度後期は国際機構専任教員2人(田中信之、濱田美和)、および、非常勤講師6人(田上栄子、中田理子、中野香保里、藤田佐和子、松岡裕見子、水田佳歩)が授業を担当した。コーディネーターについては専任教員の田中信之が担当した。

4 授業日程

前期は2021年4月12日(月)～8月2日(月)を授業期間とした。曜日調整のため、7月19日(月)は木曜日曜日の授業を行った。後期は2021年10月4日(金)～2021年1月31日(月)を授業期間とした。曜日調整のため、11月1日(月)は水曜日、12月24日(金)は火曜日、1月12日(水)は月曜日、1月13日(木)は金曜日の授業を行った。また、12月25日(土)～1月4日(火)は冬季休業、1月14日(金)は大学入試共通テスト準備日のため、休講とした。

オリエンテーションは、前期は4月6日(火)、後期は9月28日(火)に開催した。前期、後期ともに専任教員2人(田中信之、濱田美和)がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は、国際機構のホームページに掲載する他、日本語、英語、中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際機構棟談話室に掲示した。国際機構のホームページでは、時間割や授業概要(日本語、英語版を用意)の閲覧ができるようにした。オリエンテーションでは、受講希望者一人一人と国際機構専任教員が面談し、受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し、受講申請書の提出により、登録を行った。ただし、未渡日の学生や来日時期が遅れた学生等については、各クラスの担当者(初級クラスは田中信之、中級クラス、上級クラスは濱田美和)がオンラインまたは対面で面談を行った上で、開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期、後期ともに週32コマの授業を行った。前期の時間割を表1、後期の時間割を表2に示す。

表1 2021年度前期 日本語課外補講(五福) 時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス
月	1	文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1a (高島)	
	2	文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1a (高島)	漢字 C1 (濱田)
	3	漢字 A1 (高島)	聴解・会話 B1 (横堀)	表現技術 C1 (濱田)
	4			
火	1	文法 A1 (要門)		文法 C1a (濱田)
	2	文法 A1 (要門)	漢字 B1 (濱田)	
	3		文法 B1 (要門)	
	4			
水	1	文法 A1 (高島)	文法・表現 B1 (中河)	
	2	文法 A1 (高島)	文法・表現 B1 (中河)	読解 C1 (田中)
	3		作文 B1 (田中)	会話 C1 (高島)
	4			日本文化 C1 (中河)
木	1	文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (要門)	
	2	文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (要門)	文法 C1b (濱田)
	3	会話・聴解 A1 (横堀)		聴解 C1 (要門)
	4			
金	1	文法 A1 (田中)		
	2	文法 A1 (田中)		
	3	生活日本語 A1 (中田)	文法 B1 (田中)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2021年度後期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法 A2 (田上)	文法・表現 B2a(中野)	
	2		文法 A2 (田上)	文法・表現 B2a(中野)	
	3			漢字 B2 (濱田)	聴解 C2 (田上)
	4				漢字 C2 (濱田)
火	1		文法 A2 (水田)	文法・読解 B2a (中野)	
	2		文法 A2 (水田)	文法・読解 B2a (中野)	
	3		聴解・会話 A2 (藤田)	聴解・会話 B2 (水田)	読解 C2a (田中)
	4				読解 C2b (藤田)
水	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (田上)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (田上)	会話 C2 (松岡)
	3				作文 C2 (松岡)
	4				日本文化 C2 (田上)
木	1		文法 A2 (中野)		
	2	生活日本語 A2 (中田)	文法 A2 (中野)		文法 C2a (濱田)
	3		漢字 A2 (中田)		文法 C2b (濱田)
	4				
金	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2b (松岡)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2b (松岡)	

* 1 限 8:45～10:15, 2 限 10:30～12:00, 3 限 13:00～14:30, 4 限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後については、前期、後期ともに「聴解・会話」と「漢字」の授業を週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期と後期ともに週1コマ、授業を行った。

「文法」の授業週（10コマ）では、『みんなの日本語 初級』I, II第2版（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習、Moodle 上での語彙テストも適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第1週	1課～3課		第9週	28課～30課	
第2週	4課～6課	1課～6課試験	第10週	31課～33課	26課～32課試験
第3週	7課～12課		第11週	34課～37課	
第4週	13課～14課	7課～12課試験	第12週	37課～39課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	40課～43課	
第6週	19課～21課	13課～18課試験	第14週	44課～45課	39課～45課試験
第7週	22課～25課		第15週	47課～50課	
第8週	26課～27課	19課～25課試験			

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク 25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。

「生活日本語」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「文法・表現」の授業を1日2コマ連続で、「文法」の授業を週2コマ、「聴解・会話」、「漢字」、「作文」の授業を週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を週2日2コマ連続で4コマ、「漢字」、「聴解・会話」の授業を週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。

「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J 301』、『日本語中級 J 501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J 301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J 501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、読むこと、書くこと、聞くこと、話すことを通して、初中級・中級レベルの文法やその使い方を学び、さまざまな練習を行った。

「聴解・会話」の授業では、前期は「聴解・会話 B1a」では状況や目的に合った適切な表現を使って会話ができるように練習を行った。後期は、生教材を視聴・分析・真似ることや、発表、ディスカッションによって、状況や目的に合った適切な表現を練習した。

「漢字」の授業では、前期は『BASIC KANJI BOOK』VOL.2（凡人社）、後期は『BASIC KANJI BOOK』VOL.2（凡人社）と『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』Vol.1（凡人社）を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「作文」に関しては、自分の考えを、根拠を挙げて筋道を立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切かつ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業は前期週1コマ、後期は週2コマ行った。「文法」の授業は前期、後期ともに週2コマ行った。「聴解」、「会話」、「日本文化」、「漢字」の授業を前期後期、それぞれ週1コマ行った。「表現技術」の授業は前期のみ、「作文」の授業は後期のみ、それぞれ週1コマ行った。

「読解」の授業は、前期は「読解 C 1」の1科目、後期は「読解 C 2a」と「読解 C 2b」の2科目を設けた。「読解 C 1」「読解 C 2a」は、協働的な活動を通して批判的に読む能力を身につけることを目標とし、テキストの理解を深め、クラスメイトへの理解を深め、自分自身の考えを深め、自分のことを振り返ることができるよう練習を行った。「読解 C 2b」は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』（スリーエー

ネットワーク)をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。

「文法」の授業では、前期は「文法 C1a」「文法 C1b」、後期は「文法 C2a」「文法 C2b」のレベル別の2科目を設けた。「文法 C1a」「文法 C2a」では『TRY!日本語能力試験N2文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)、「文法 C1b」では『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)、「文法 C2b」ではTRY!日本語能力試験N1文法から伸ばす日本語 改訂版』(アスク出版)をメインテキストとし、大学での学習、研究生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。

「聴解」の授業では、聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、大学生活や日常生活で出会う状況での会話力を伸ばし、より適切に会話の目的が果たせるように練習を行った。また、専門において必要な口頭発話能力を伸ばす活動(発表、スピーチ、討論など)を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、前期は『留学生のための漢字の教科書 上級 1000 [改訂版]』(国書刊行会)、後期は『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2 (凡人社)を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用した口頭発表の練習を行った。

「作文」の授業では、実際のレポートや論文を分析しながら、論理展開の仕方、構成、表現を学ぶことで、論理的な文章を書くための基礎力を身につけることを目標年、練習を行った。同時にレポート作成上のルールも学び、自身が選んだテーマでレポートを書き進め、そのレポートを提出した。

6 試験

初級クラス「文法」「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は会話試験である。「漢字」では前期のみ期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・読解」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法」「漢字」「作文」は期末試験を実施した。「文法・表現」は、前期は期末試験、後期は中間試験と期末試験を実施した。「聴解・会話」は、前期は期末試験を実施、後期は課題提出とした。

上級クラスでは、「文法」「聴解 C2」「漢字」は中間試験と期末試験を、「表現技術」「聴解 C1」は期末試験を実施した。「読解 C1」「読解 C2a」「作文」は期末レポートを、「日本文化」は、前期は期末試験を実施し、後期は課題提出とした。「読解 C2b」は毎回の授業で小テストを実施した。「会話」は中間と期末に発表を課した。

7 ライデン大学短期日本語研修プログラム

ライデン大学短期日本語研修プログラムは、オランダのライデン大学からの交換留学生のために、2017年度4月に開設したプログラムである。ライデン大学からの留学生は人間発達科学部の交換留学生ではあるが、国際機構で4月から3か月間の短期日本語研修プログラムを設けている。ライデン大学生は日本語課外補講の学生として、他の学生とともに日本語科目を受講している。

2021年度は前年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大のため、受け入れが中止となった。そこで、オンラインプログラムを実施することにした。コーディネーターは専任教員の田中信之、吉川朋子が担当した。表4はオンライン留学プログラム概要である。ライデン大学に案内したところ、各講義・交流にライデン大学生7～10人が参加した。

表4 オンライン留学プログラム概要

日 時	プログラム概要	
7月5日(月) 16:00～18:00	富山大学の授業に参加してみよう!	「身のまわりのマイクロ技術」(高野先生)
7月6日(火) 16:30～18:30	人間発達科学部学生との交流会	
7月8日(木) 16:30～18:30	日本人学生との交流会	
7月9日(金) 16:30～18:30	技がつくる文化	一部 「拡がりを見せる武術」(田邊先生) 二部 「引き継がれる工芸」(小川先生)
7月2日(金)～	ビデオレターによる小学生との交流	富山大学人間発達科学部 附属小学校4年生

8 おわりに

昨年度と同様に、新型コロナ感染症拡大の影響により、受講者数が少ない状況であった。前期はオンライン授業となったが、後期は学期途中から一部対面授業へと移行できた科目もあった。試験についても、前期はMoodleの小テスト機能を用いた科目が多かったが、後期は対面での試験も一部に実施できるようになった。対面授業へ移行は教員、学生ともに喜びが大きい。オンライン授業で培った経験、技能も忘れてはならない。今後はオンライン授業のメリットや経験を踏まえた授業を行ってきたい。